

田園の樂しみ

王維

維

桃は紅にして復宿雨を含み

柳は緑にして更に春煙を帯ぶ

花落ちて家僮未だ掃わす

鶯啼いて山客猶眠る

【作者】王維(七〇一?～七六一年)…盛唐の詩人。字は摩詰。太原祁県(現・山西省祁県東南)の人。進士となり、右拾遺…尚書右丞等を歴任。晩年は仏教に傾倒した。

【語釈】*桃紅…桃の花が赤い意。 *復…再び。また。 *宿雨…前日から降り続く雨。 *家童…召使いの少年。しもべ。めしつかい。

*未掃…まだ掃除をしていない意。 *山客…山に住む人。山に尋ねてきた人。 *猶…まだ。いまだに…のようである。

【通釈】美しい自然に囲まれた田園のすばらしさを詠う。

桃の花は赤く、その上に、前日から降り続く雨に湿っており。柳は緑色になり、その上、朝靄(もや)がかかっている。

花は落ちたが、一面に散った花びらを召使いの少年には、まだ掃かせていない。日が出て、ウグイスが啼いているというのに、山に住む人(或いは、作者自身をも指すか)は、まだ眠っているようだ。